

ヤスクニ・レポ 256

原発再稼働に反対する

小川 正明(日本基督教団小金教会会員)

6月23日、運転開始後40年を超える原発が初めて再起動された。福井県美浜原発3号機で、1976年運転開始、2004年には、配管破断事故で5人死亡、6人が負傷している。最新式の原発でも危険なのに、昔の設計で、老朽化した原発を再稼働させることは極めて危険である。

2014.5.21 福井地裁判決：地震大国日本において原発の耐震性は極めて低い。

2020.12.6 大阪地裁判決：規制委員会の地震規模の想定で、ばらつきへの考慮が欠けている。

2021.3.18 水戸地裁判決：原発の30キロ圏内、14自治体、94万人の避難計画の不備。

ところで、小学生の孫が、学校から小学生のための放射線副読本、文部科学省という冊子をもってきたので、読んでみた。

副読本10ページ：「放射線が人の健康に及ぼす影響は、放射線の有無ではなく、その量が関係していることが分かっています。100ミリシーベルト以上の放射線を人体が受けた場合には、がんになるリスクが上昇するということが科学的に分かっています。」これでは、100ミリシーベルト未満の被曝では健康への影響がないと言っているようなものである。

同12ページ：「2011年福島原発事故で放出された放射性物質の量は、1986年チェルノブイリ原発事故の約7分の1であり、福島県が県民などに対して実施した体の中に入った放射性物質から受ける放射線の量を測定する検査の結果によれば、検査を受けた全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされています。」

環境省のHPに入るとチェルノブイリと福島第一の放射性核種の推定放出量の比較という表を見ることができる。

この表によると、最も大量に放出された核種はキセノン133で、福島第一では1万1千ペタベクレル、チェルノブイリでは6千5百ペタベクレルと推定されている。これには疑問に思われる方もいるかも知れないが、チェルノブイリは一基の原子炉が爆発炎上、電気出力100万キロワットに対して、福島第一では3基の原子炉がメルトダウン、合計電気出力200万キロワットであることを見れば納得できることである。同じ表に載っているセシウム134とセシウム137の合計で比較すると、福島第一では33ペタベクレル、チェルノブイリでは132ペタ

ベクレルであるから、仮にキセノンを無視して、セシウムだけで比較したとしても4分の1程度になる。7分の1の根拠が分からない。

また、国際原子力事象評価尺度で見ると、レベル7にチェルノブイリと福島第一が評価され、レベル5にスリーマイル島(1979年)が評価されている。現在のところレベル6の原発事故はない。

検査の結果によれば健康に影響が及ぶ数値ではなかったとあるが、事故後の困難な避難行動の中で、必要な検査をしてこなかったことが見落とされている。また、甲状腺がんの増加をどう説明するのか。

同13ページ：「福島県内の放射線の量は事故後7年で大幅に低下しており、今では福島第一原子力発電所のすぐ近く以外は国内や海外の主要都市とほぼ同じぐらいになっています。」半減期の短い核種は検出されなくなっているが、広範囲に汚染された、セシウム137は半減期が30年なので、半分になるのも、さらに20年後ということである。とてもほぼ同じぐらいとは言えない。

同17ページ：食品中の放射性物質に関する指標等(単位ベクレル/kg)と標題のついた表があり、日本、EU、米国等の数値が記載されている。一見して、日本の基準が他国に比べて厳しいと思われるように書かれている。しかし、欄外の注を読むと「本表に示した数値は、食品から受ける線量を一定レベル以下に管理するためのものであり、安全と危険の境目ではありません。また、各国で食品の摂取量や放射性物質をふくむ食品の割合の仮定値等の影響を考慮してありますので、単に数値だけを比べることはできません。」と明記されている。一体何のための表なのか、離れたところにある注意書きに気が付かない人も多いのではないと思われる。

2年後に汚染水を太平洋に放出しようとしているが、経産省のHPに多核種除去設備等処理水の取り扱いに関する小委員会報告書2020年2月10日というのがある。その中に、「また、ALPSはトリチウム以外の放射性物質について、告示濃度未満まで浄化する能力を有しているが、タンクに保管されている『ALPS処理水』の約7割には、2019年12月31日時点でトリチウム以外の放射性物質が環境中へ放出する際の基準を超えて含まれている。」

ALPSはトリチウム以外の62種類の放射性物質を告示濃度未満まで浄化する能力があるといわれるが、62種類の核種が何か良く分からない。昨年8

月、東電は汚染水に炭素 14 が含まれていると発表した。ALPS ではこの炭素 14 も除去できないそうである。ここからも、処理水はトリチウム水だと言うことに無理があることが分かる。他ではもっと大量のトリチウムを環境に放出しているからと言っても、メルトダウンした核燃料デブリに汚染された処理水を太平洋に流してはならない。これらを海水で薄めて太平洋に流すと言っているが、この海水も太平洋から汲み上げるに違いないから、汚染水が全量太平洋に拡散されることに変わりはない。

今やるべきことは、125万トンに上る処理水を再処理して、とりあえず、62種類の放射性物質を告示濃度未満まで浄化することである。

汚染水の発生量は、2018年度は1日当たり約170トンだったそうである。東電福島第一原発の廃止措置等に向けた中長期ロードマップによれば、これを、2020年以内に150トン程度、2025年以内に100トン以下に抑制させるとしている。このペースで考えると、1年で4~5万トン増加することになる。この程度のタンクあるいは、保管設備の増設は可能であるし、保管し続けなければならない。

トリチウムの半減期は12.3年であるから、100年とか200年保管すると、そのほとんどは無害なヘリウムに変わっているであろう。その他の核種については、その間に今考えている以上にスマートな処理方法が現れることを期待したい。

2021年6月18日例会奨励「地は刈り取られた」

ヨハネの黙示録14章16節 星出卓也牧師(日本長老教会西武柳沢キリスト教会)

この箇所は、神の時が来て、再臨のキリストが主に贖われた者たちを集める様を描いています。ここで刈り取られるのは、主の収穫として刈り取られる御国に属する子供たちです。主に贖われて、この地において主のものとして生きた御国の子供達が、主の収穫として刈り取られ、滅びの子としてではなく、燃えるゲヘナに投げ込まれる者としてではなく、主に喜ばれ、主に歓迎される者として主の手によって刈り取られます。その収穫の手は、一粒の麦すらも無駄に地に落とすことがなく、どんな小さな収穫であっても見逃す事はありません。「**雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。**」

黙示録の13章以降から御国の子供たちの労苦と忍耐が幾重にも描かれています。獣は聖徒たちに戦いを挑み、彼らを殺すことが許されたと、13章7節に書かれ、13章17節でも獣を礼拝しない者、つまりまことの神以外を拝む事を拒否する者は、売ることも買うこともできないようにされるとあります。主の御名のゆえに命までも奪われ、日常の生活にまで困るところまで追い詰められる御国の子供達。この世の子らは、信仰の故に苦しまなければならないクリスチャンは愚かだと思ってしまうでしょう。獣を礼拝しさえすれば安泰な毎日が保証され、豊かな生活を享受し、思い悩む事のない生活を送ることが出来る。キリストのみを神として信じるという偏狭で、独善的な宗教に凝り固まっている故に、生涯報われる事のない苦しみの生涯を送らなければならない愚か者。しかも神の国のために命までも落とすとは。命あつての宗教。幸せあつての信仰ではないのか。それを信仰のために命までも失うとは本末転倒ではないか。このように世に属する人は、御国の苦難に与るクリスチャンのことが全く理解できません。彼らの労苦こそが彼らの愚かさの印と嘲ります。

しかしこの価値観が完全に逆転する時が来るのです。

その時、世から愚かと罵られ続け、御国の労苦を担い続けた彼らこそが、本当の知恵者であり、主を恐れるという本当の知恵によってこの地を歩み続けた、まことの知恵者であったことが明らかにされます。

人間の支配がどんなに強大で、永遠に続くかのように見えたとしても、その支配は不完全なものでしかありません。それは強固な城ではなく、主の一息で消え去るもろい支配でしかありません。恐れるべきは唯一つ。完全な支配を行われる神のみを恐れよ。

マタイの福音書10:28-33「**からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。」**

本日の箇所は非常に短い一節であります。御国の労苦に与るクリスチャンたちに大きな励ましを送る一節です。御国の労苦に与るクリスチャンを愚かと笑う、この世の知恵。御国の労苦に与る事を幸いとする主の民の知恵。さてどちらが本当の賢者か。やがて明らかになる本当の知恵に従って、この世を忍耐と労苦をもって主に従い続ける者は幸いなのです。

「ご報告」愛する山川暁先生は、2021年6月30日に80年の地上の生涯を終えられ、主の御元に召されました。葬式は7月5日に日本キリスト教会東京告白教会で行われました。山川眞紀子夫人、ご家族の慰めをお祈りください。